

第3回ストレスチェック項目等に関する専門検討会 資料

2014年7月25日

東京医科大学公衆衛生学（小田切優子、大谷由美子）

第2回までの検討の結果、ストレスチェック項目については23項目を使用する案があり、これに関連して参考となる資料を作成した。

1. 睡眠と食欲の項目について検討

① 再テスト法による信頼性の検討

労働者10名（女性3名男性7名）に対して1週間の間隔をおいて職業性ストレス簡易調査票を2回実施。

●食欲がない

項目間相関係数=0.804

級内相関係数=0.800

		2回目				合計
		ほとんど なかった	ときどき あった	しばしば あった	ほとんどい つもあった	
1回目	ほとんどなかった	7	2			9
	ときどきあった					
	しばしばあった			1		1
	ほとんどいつもあった					0
合計	7	2	1	0	10	

●よく眠れない

項目間相関係数=0.651

級内相関係数=0.536

		2回目				合計
		ほとんど なかった	ときどき あった	しばしば あった	ほとんどい つもあった	
1回目	ほとんどなかった	5	1	1		7
	ときどきあった		1	2		3
	しばしばあった					0
	ほとんどいつもあった					0
合計	5	2	3	0	10	

睡眠の項目については級内相関係数がやや低い値を示した

② 睡眠項目の妥当性の検討

睡眠の項目（4件法）とアテネ不眠尺度（8項目4件法、ICD-10診断基準に基づいて作成された不眠尺度）を同時に実施した集団（男性937名、女性4,337名、平均年齢各々42.3±11.8、49.4±9.4歳）を対象として基準関連妥当性（併存的妥当性）について検討した。

睡眠の項目（1～4点）とアテネ不眠尺度（0～24点）のSpearman相関係数を算出したところ、男性で0.603(n=908)、女性で0.589(n=4,178) (p<0.01) といずれも有意な正の相関がみられた。

アテネ不眠尺度の6点以上を不眠症有、5点以下を無とし、不眠症の有無で睡眠項目の点数に差があるか検定した。

男性：不眠症有(n=282)2.23±0.89、無(n=626)1.26±0.58 (p<0.001)

女性：不眠症有(n=1,158)2.14±0.85、無(n=3,020)1.27±0.55 (p<0.001)

であり、不眠症有群と無群で睡眠項目の点数に有意な差が認められた。

2. 23項目9尺度を使用して判定した場合の該当者割合

対象：中災防のヘルスアドバイスサービスから抽出した職業性ストレス簡易調査票の平成24年度データで、有効データ201,700名のうち、18歳未満と66歳以上を除く199,136名について検討した。（業種は運輸、卸売、金融、鉄鋼、医療・福祉が併せて約13万名）
本分析で表記する該当者割合は男女合計である。

該当者割合の算出方法

心身のストレス反応（11項目5尺度）については

- ① 疲労+不安+抑うつ合計点が27点以上
- ② 疲労12点/不安11点/抑うつ10点のいずれか1つに該当するの2つについて、食欲3点以上 あるいは 睡眠4点 の 合わせて4つの条件のうちいずれかに該当する場合 を“ストレス反応有”とした

ストレス要因・支援（12項目4尺度）については

量的負担/コントロール/上司の支援/同僚の支援 について職業性ストレス簡易調査票事務局で公開している各尺度の5段階評価の基準値を適用し、5段階評価のもっとも好ましくない評価に該当するか否か

を基準に、各尺度の該当者割合（%）を算出した

次に、ストレス反応の①（表1）および②（表2）のそれぞれについて、

- A) ストレス反応に該当するか あるいは ストレス要因・支援のうちいずれか1つ、あるいは2つ、あるいは3つあるいは4つある場合
 - B) ストレス反応に該当し、かつ ストレス要因・支援のいずれか1つはある場合
 - C) ストレス反応に該当し、かつ ストレス要因・支援のうちいずれか1つ、あるいは2つ、あるいは3つあるいは4つのうち1つ以上ある場合
- について該当者割合を算出した。

表1：ストレスチェックに該当する者の割合（男女計）：『ストレス反応の判定に疲労+不安+抑うつ27点以上』あるいは食欲あるいは睡眠を用いた場合

・ストレス反応の該当者割合は13.4%で、この条件を満たすか、あるいはストレス要因・支援の4尺度のいずれかがある該当者を算出すると 27.8%が該当した（結果A）。

・ストレス反応の該当者 かつ ストレス要因・支援のいずれか1尺度に該当する者を算出すると 量的負担との組み合わせでは3.5%だったが、コントロール、上司・同僚支援の場合は2%に満たなかった。（結果B）

・ストレス反応の該当者 かつ ストレス要因・支援の4尺度のうち1～4尺度の組み合わせいずれかに該当する者 を組み合わせると ストレス反応に該当しかつ4尺度いずれかに該当する者の組み合わせが6.2%であった。（結果C）

表2：ストレスチェックに該当する者の割合（男女計）：ストレス反応の判定に『疲労あるいは不安あるいは抑うつ』あるいは食欲あるいは睡眠を用いた場合

ストレス反応の該当者割合は13.7%で、この条件を満たすか、あるいはストレス要因・支援の4尺度のいずれかがある該当者を算出すると27.9%が該当した(結果D)。

・ストレス反応の該当者かつストレス要因・支援のいずれか1尺度に該当する者を算出すると量的負担との組み合わせでは3.5%だったが、コントロール、上司・同僚支援の場合は2%に満たなかった。(上記結果Bと同様の該当者割合)(結果E)

・ストレス反応の該当者かつストレス要因・支援の4尺度のうち1～4尺度の組み合わせいづれかに該当する者を組み合わせるとストレス反応に該当しかつ4尺度いづれかに該当する者の組み合わせが6.3%であった。(結果F)

なお、ストレス反応5尺度およびストレス要因・支援4尺度のそれぞれの該当者割合の組み合わせや、当該尺度に該当し他の尺度に該当しない者の割合等、詳しい数値は図1および図2に示した。

次に、『ストレス反応』と『ストレス要因・支援』を別々に評価しようとする場合、それぞれに該当する場合としない場合の組み合わせについて、抽出される割合がどのくらいか検討した。

別紙表3は、疲労+不安+抑うつ合計得点が27点以上、あるいは食欲あるいは睡眠のいずれかに該当する場合を『ストレス反応』(+)として、

『ストレス要因・支援』のいずれか1つ以上がある場合を(+)として組み合わせた場合を示している。全体にしめる割合は以下ようになった。

		ストレス反応		合計
		+	-	
要因・支援	+	6.2	14.4	20.6
	-	7.2	72.2	79.4
合計		13.4	86.6	100.0

『ストレス反応』(+)でかつ『ストレス要因・支援』も(+)の場合=6.2%

『ストレス反応』(+)だが『ストレス要因・支援』は(-)の場合(仕事の負荷はあまりないが不調の訴えがある)=7.2%

『ストレス反応』(-)で『ストレス要因・支援』は(+)の場合(仕事の負荷は大きいと感じているが不調を訴えていない)=14.4%

『ストレス反応』(-)で『ストレス要因・支援』(-)の場合=72.2%であった。

『ストレス反応』(+)の人の中で『ストレス要因・支援』(+)の人の割合は46%

『ストレス反応』(+)の人の中で『ストレス要因・支援』(-)の人の割合は54%

『ストレス反応』(-)の人の中で『ストレス要因・支援』(-)の人の割合は83%

『ストレス反応』(-)の人の中で『ストレス要因・支援』(+)の人の割合は17%と計算された。

以上

表1

ストレスチェックに該当する者の割合(男女計): 【ストレス反応の判定に疲労+不安+抑うつ27点以上】あるいは食欲あるいは睡眠を用いた場合

尺度	疲労+不安+抑うつ	食欲	睡眠	量的負担	コントロール	上司支援	同僚支援
分割基準 得点	合計≥27	≥3	≥4	=12	3,4(男性) =3(女性)	3,4(男性) =3(女性)	3-5
該当者割合 (%)	9.0	4.5	4.0	10.4	4.6	5.3	5.8

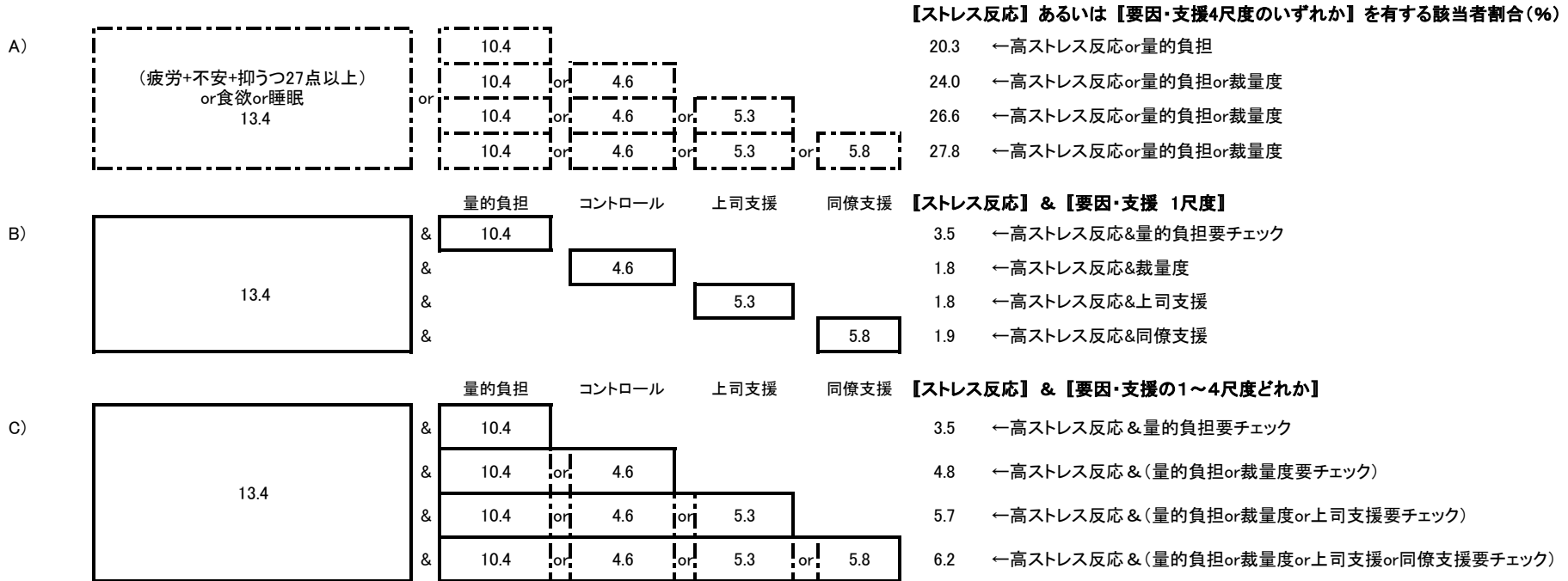


表2

ストレスチェックに該当する者の割合(男女計)

: ストレス反応の判定に【疲労あるいは不安あるいは抑うつ】あるいは食欲あるいは睡眠を用いた場合

尺度	疲労	不安	抑うつ	食欲	睡眠	量的負担	コントロール	上司支援	同僚支援
分割基準 得点	≥12	≥11	≥10	≥3	≥4	=12	3,4(男性) =3(女性)	3,4(男性) =3(女性)	3-5
該当者割合 (%)	5.3	3.4	5.2	4.5	4.0	10.4	4.6	5.3	5.8

(疲労or不安or抑うつ = 9.2)

すべての尺度いずれかを有する該当者割合(%)

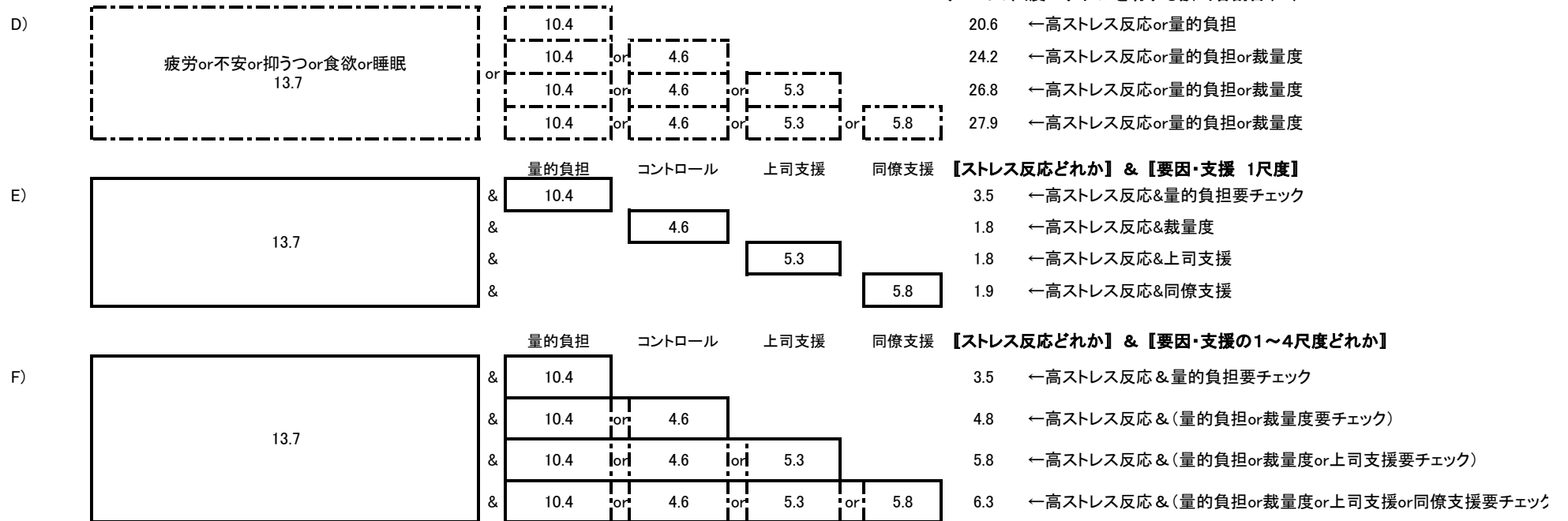
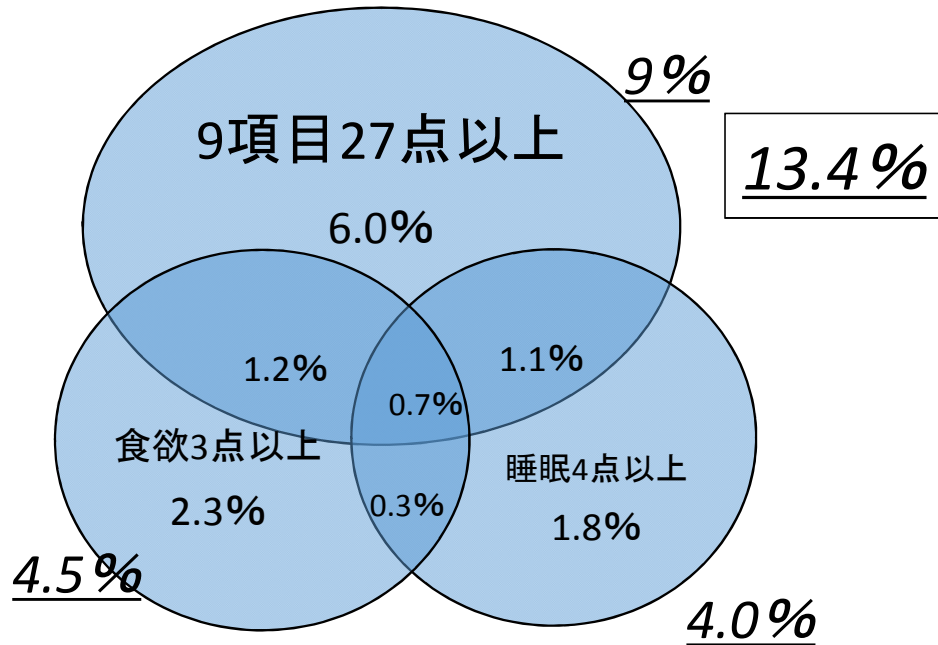


図1
 ストレス反応の組み合わせの該当者割合

疲労+不安+抑うつ合計得点27点以上 or 食欲 or 睡眠



疲労or不安or抑うつor食欲or睡眠

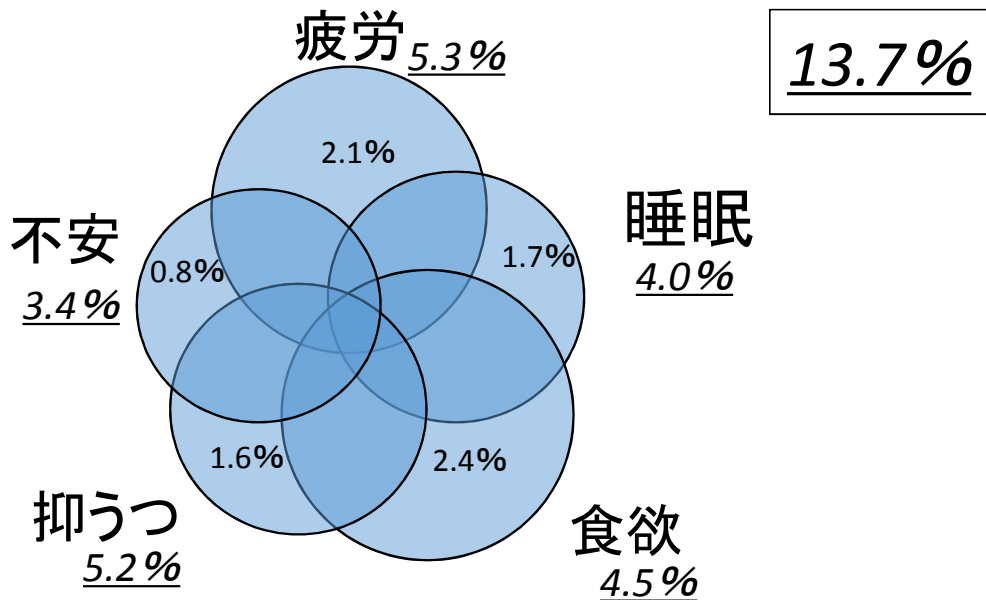


図2
ストレス要因・支援 該当者割合

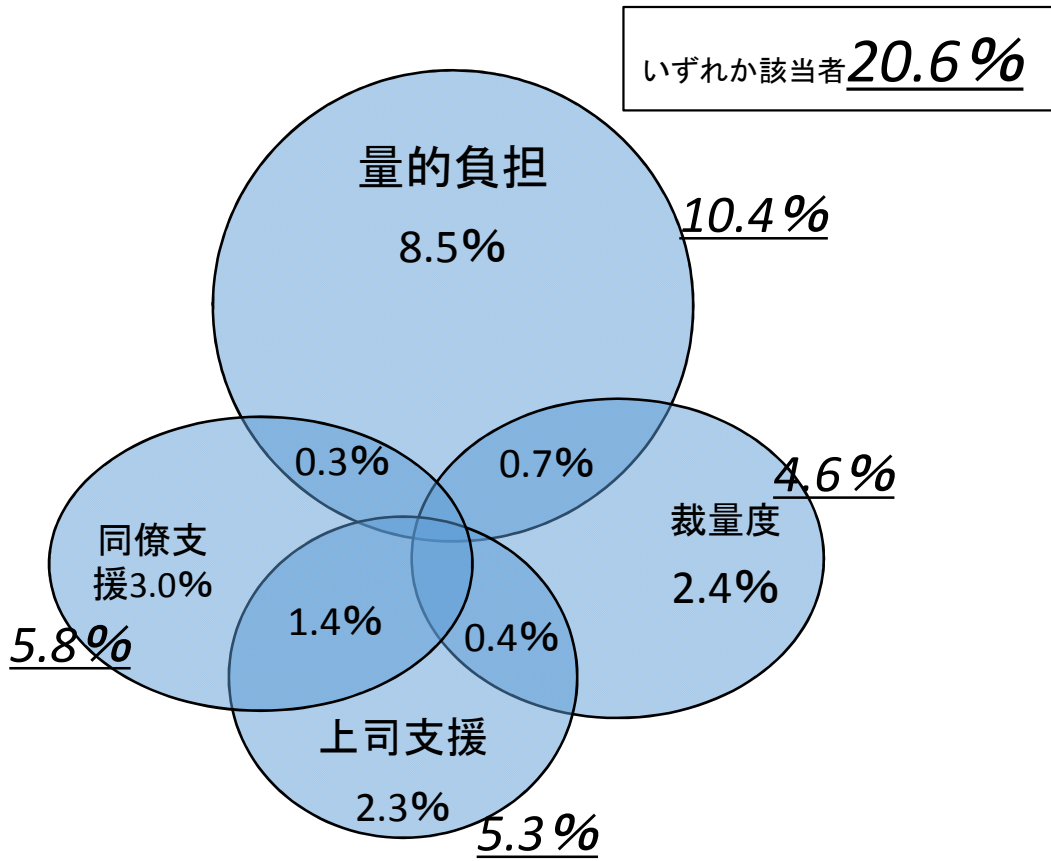


表3 ストレス反応とストレス要因・支援 のクロス表

疲労不安抑うつ27点以上or食欲or睡眠

		【疲労不安抑うつ27点以上】 or 食3or睡眠4				合計	
		0	1	2	3		
量的 支負担 or or or 同裁 僚量 支or 援r 上 司	0	度数	136702	10968	2236	427	150333
		総和の %	72.2%	5.8%	1.2%	.2%	79.4%
	1	度数	22860	5826	1696	376	30758
		総和の %	12.1%	3.1%	.9%	.2%	16.3%
	2	度数	3711	1770	677	265	6423
		総和の %	2.0%	.9%	.4%	.1%	3.4%
	3	度数	572	485	243	157	1457
		総和の %	.3%	.3%	.1%	.1%	.8%
	4	度数	48	87	62	67	264
		総和の %	.0%	.0%	.0%	.0%	.1%
合計		度数	163893	19136	4914	1292	189235
		総和の %	86.6%	10.1%	2.6%	.7%	100.0%

人数		ストレス反応		
		+	-	
要因・支援	+	11,711	27,191	38,902
	-	13,631	136,702	150,333
		25,342	163,893	189,235

%		ストレス反応		合計
		+	-	
要因・支援	+	6.2	14.4	20.6
	-	7.2	72.2	79.4
合計		13.4	86.6	100

要因・支援に該当する人は全体の20.6%

反応に該当する人は全体の13.4%

【反応】（+）【ストレス要因・支援】（+）の場合=6.2%

【反応】（+）【ストレス要因・支援】（-）の場合（仕事の負荷はあまりないが不調の訴えがある）=7.2%

【反応】（-）【ストレス要因・支援】（+）の場合（仕事の負荷は大きいと感じているが不調を訴えていない）=対人関係？家庭内の要因？

【反応】（-）【ストレス要因・支援】（-）の場合=72.2%

【反応】（+）の中で【ストレス要因・支援】（+）の人の割合は46.2%

【反応】（+）の中で【ストレス要因・支援】（-）の人の割合は53.7%

【反応】（-）の中で【ストレス要因・支援】（-）の人の割合は83.4%

【反応】（-）の中で【ストレス要因・支援】（+）の人の割合は16.6%

表4 ストレス反応とストレス要因・支援 のクロス表

ストレス反応 【疲労／不安／抑うついずれか】 or 食欲or睡眠

		【疲労12or不安11or抑うつ10】 or 食3or睡眠4				合計		
		0	1	2	3			
量的 支負担 or 同僚量 or 支援 上	0	度数	136366	11401	2113	453	150333	
		総和の %	72.1%	6.0%	1.1%	.2%	79.4%	
	1	度数	22725	6029	1641	363	30758	
		総和の %	12.0%	3.2%	.9%	.2%	16.3%	
	2	度数	3699	1776	676	272	6423	
		総和の %	2.0%	.9%	.4%	.1%	3.4%	
	3	度数	549	513	235	160	1457	
		総和の %	.3%	.3%	.1%	.1%	.8%	
	4	度数	47	90	58	69	264	
		総和の %	.0%	.0%	.0%	.0%	.1%	
	合計		度数	163386	19809	4723	1317	189235
			総和の %	86.3%	10.5%	2.5%	.7%	100.0%

人数		ストレス反応		
		+	-	
要因・支援	+	11882	27020	38902
	-	13967	136366	150333
		25849	163386	189235

%		ストレス反応		合計
		+	-	
要因・支援	+	6.3	14.3	20.6
	-	7.4	72.0	79.4
合計		13.7	86.3	100

要因・支援に該当する人は全体の20.6%

反応に該当する人は全体の13.7%

【反応】(+) 【ストレス要因・支援】(+)の場合=6.3%

【反応】(+) 【ストレス要因・支援】(-)の場合(仕事の負荷はあまりないが不調の訴えがある)=7.4%

【反応】(-) 【ストレス要因・支援】(+)の場合(仕事の負荷は大きいと感じているが不調を訴えていない)=14.3% 対人関係? 家庭内の要因?

【反応】(-) 【ストレス要因・支援】(-)の場合=72.0%

【反応】(+)の中で 【ストレス要因・支援】(+)の人の割合は45.9%

【反応】(+)の中で 【ストレス要因・支援】(-)の人の割合は54.0%

【反応】(-)の中で 【ストレス要因・支援】(-)の人の割合は83.4%

【反応】(-)の中で 【ストレス要因・支援】(+)の人の割合は16.6%